

平成二十五年四月十日発行  
皇學館論叢第四十六卷第二号 抜刷

資料

賀陽宮家編

『邦憲王殿下御実録』 綱文

大  
平  
和  
典

## 賀陽宮家編

## 『邦憲王殿下御実録』 綱文

## 大 平 和 典

賀陽宮邦憲王（慶応三年（一八六七）～明治四十二年（一九〇九））は、久邇宮朝彦親王（当時、賀陽宮）の王子として生まれ、皇學館で学ばれた後、神宮祭主・神宮皇學館総裁などつとめられた。

筆者は先に、皇學館大学が所蔵する『邦憲王殿下御実録』ほか賀陽宮家の御実録について、史料の概略を紹介した（『邦憲王殿下御実録』・『邦憲王妃殿下御実録』・『恒憲王殿下御実録』・『田紀子女王殿下御実録』・『佐紀子女王殿下御実録』について、『皇學館大学紀要』第四十九輯、平成二十三年三月）。いずれも賀陽宮家の編になり、宮内省図書寮編修課で編纂された『天皇・皇族実録』と同様、まず綱文を掲げ、ついで史料を原文のまま引挙している。賀陽宮家の史料が駆使され、同宮家のみな

らず、その周辺の事柄を知る上で、極めて貴重な編纂物である。本稿では、このうち『邦憲王殿下御実録』より綱文を抄出し、各条文末尾に典拠の史料名を注記する。綱文の抄出にあたっては、仮名遣い等は原文のままとしたが、句読点・濁点・返り点を付し、各年に元号・西暦・年齢等を適宜補うなど、体裁を整えた。

## 邦憲王殿下御實録

## 卷之壹

自慶應三年六月  
至明治二十五年十二月

慶應三年卯丁（一八六七）

六月朔日癸未 御降誕。御用部屋日記、達書録、奥局日記

一歳

同日<sup>丁</sup> 巖宮と称せらる。御用部屋日記、奥局日記

十月二十四日<sup>癸亥</sup> 御本邸御普請中、粟田御殿へ御移。御用部屋日記、粟田北御殿記、青蓮院記

田北御殿記、

十一月十五日<sup>甲子</sup> 御箸初。御用部屋日記、粟田北御殿記

明治元年<sup>戊辰</sup> (一八六八)

八月十六日 伏見宮へ御預被<sup>三</sup>仰付、二年<sup>巳</sup>五月二十四日、

藝州へ移らせられ、三年<sup>庚午</sup>十月、御父君に隨て伏見宮へ

還らせらる。伏見宮記、浅野家記、伏見宮系譜、並河尚教記、久邇宮日記、廣島藩記、賀陽宮記

明治二年<sup>己巳</sup> (一八六九)

十一月二十八日<sup>乙未</sup> 御色直。芸州御館日記

明治五年<sup>壬申</sup> (一八七二)

正月六日 御父君、自今宮と稱し、三品に叙せらる。御日記

明治八年<sup>乙亥</sup> (一八七五)

五月(二十日) 御父君、親王宣下、久邇宮と称せらる。

皇族関涉録、皇親録

明治十二年<sup>己巳</sup> (一八七九)

九月四日 東京に於て修學すべく、御内沙汰あらせらる。

書翰○山岡鉄太郎

明治十三年<sup>庚辰</sup> (一八八〇)

一月(十日) 皇族子女へ御賄賂を賜ふ。宮内省記

明治十五年<sup>壬午</sup> (一八八二)

十六歳

『邦憲王殿下御実録』網文(大平)

一月(十四日) 神宮教院學寮へ御入學の爲め、伊勢國へ御

寄寓。賀陽宮記、皇親録、從局日記、宮内省記、神宮司廳記

二月三日 皇大神宮に、十一日 豊受大神宮に、初めて御参

拜あらせらる。神宮司廳記、御旅館詰日記

七月三十日 月見御祝。御旅館詰日記、慶光院記、貞丈雜記、古事類苑、言成御記

十一月二十七日 神宮教院總裁認可。録、宮内省記、神宮教院記、皇親久邇宮家扶詰所日記、御道中日記、御附手扣

明治十六年<sup>癸未</sup> (一八八三)

四月二十一日 神宮式年御造營木造始祭に付、朝彦親王の代

理として祭儀奉仕。御旅館詰日記

四月二十八日 神宮皇學館開校式台覽。御旅館詰日記、中田正朔記、(参照)神宮皇學館一覽

七月十一日 父朝彦親王、特旨を以て二代皇族に列せらる。御旅館詰日記

明治十七年<sup>甲申</sup> (一八八四)

一月一日 御式日。御旅館詰日記、奥向日記

一月七日 御稽古始。御旅館詰日記

二月十八日 宇治中之切町山本末成方へ御移轉。御旅館詰日記、神宮司廳記、御日課

三月一日 弓術の御稽古を始めらる。御旅館詰日記

三月十日 琵琶の御稽古を始めらる。御旅館詰日記

三月二十三日 劍術の御稽古を始めらる。御旅館詰日記

四月十五日 神宮教院總裁御断。御旅館詰日記、皇親録、賀陽宮記

明治十八年乙酉（一八八五）

十九歳

十二月二日 多田王、梨本宮御相續。御旅館詰日記、久御宮家扶詰所日記

明治十九年丙戌（一八八六）

二十歳

七月二十一日 邦憲と御改名。久邇宮記、並河家記、御旅館詰日記

九月二十二日 始めて和歌を詠出せらる。御旅館詰日記、中田正朝記

明治二十年丁亥（一八八七）

二十一歳

三月六日 皇太后宮陛下○英照、皇太后、神宮御参拜あらせらる。御旅館詰日記

日記、奥向日記

三月七日 邦彦王を以て久邇宮継嗣と定めらる。宮内省記、御日記、御親書○朝課、御親書○朝

彦親王殿下、御親書○邦憲王殿下、中根頼翁記

明治二十一年子戊（一八八八）

二十二歳

二月二十三日より時々、神宮皇學館に御通學。御旅館詰日記

十一月二十八日 伊雑宮御参拜。御旅館詰日記

十二月八日 邦彦王御初め六方、御修學の爲め東京へ御発途。御旅館詰日記

明治二十二年丑己（一八八九）

二十三歳

一月七日 御稽古始。御旅館詰日記

二月十一日 憲法発布式。御旅館詰日記、奥向日記、參照、官報號外

同日 皇族列次御定の達あり。官報號外、皇親録

三月二十六日 宇治橋渡始式御覽。御旅館詰日記

四月十三日 林寄文庫に於て櫻花を觀させ給ふ。御旅館詰日記

五月七日 馬術の御稽古を始めらる。御旅館詰日記

五月二十六日 彰仁親王御息所所殿下、神宮御参拜の途次、御訪問あらせらる。御旅館詰日記

六月三日 瀧原宮御参拜。御旅館詰日記

十月二日 皇大神宮、十月五日 豊受大神宮、式年御遷宮に付、御参拜。御旅館詰日記

十一月二十一日 比呂子女王薨去。御旅館詰日記、奥向日記、御親書○邦憲王殿下

明治二十三年庚寅（一八九〇）

二十四歳

二月二十日 清祓。御旅館詰日記

四月八日 能久親王殿下、神宮御参拜の途次、御訪問あらせらる。御旅館詰日記

七月一日より、土佐旧藩士大石圓をして漢籍を講ぜしめらる。御旅館詰日記

十月十三日 内閣総理大臣より、帝國議會召集に付、貴族院に列席せらる可く傳宣あり。傳宣書（參照）宮内省記、貴族院令

十一月三日 東宮殿下より書名千歳の菊一部贈らせらる。賀陽宮文書

十二月二十四日 安喜子女王殿下、正三位侯爵池田章政長男正五位池田詮政と結婚せらる。御旅館詰日記、奥向日記

明治二十四年卯辛（一九一）

二十五歳

七月二十九日 皇太子殿下二見浦に行啓、八月二十日、東京

還啓あらせらる。御旅詣日記、御日課

十月二日 御船遊。御旅詣、御日課

十月二十四日 御父朝彦親王殿下、薨去せらる。御旅詣日記、奥向日記

十月二十八日 京都御帰還の途次、三重縣下関停車場と柘植

停車場の中間に於て汽車脱線、各宮殿下恙あらせられ

ず。皇親録

十二月十五日 故御父朝彦親王五十日祭御参列の爲め京都へ

御發途、同十九日、伊勢御旅館へ御帰着。御旅詣、御日課

十二月二十八日 御賄料を賜ふ。皇親録

十二月二十九日 御修學調査。賀陽宮記、參照神宮學館記

明治二十五年壬辰（一八九二）

二月三日 伊勢御旅館御引拂の上、京都へ還らせらる。御旅詣、御日課

二月十日 山本章夫を召して漢籍を講ぜしむ。御日課、山本章記

二月十八日 木村介福を召して馬術を學ばせらる。御日課、御日課

三月十九日 後月輪東山陵并近陵御参拜。御日課

六月七日 山階宮家令黒岩直方、御世話掛となる。賀陽宮記、人事録

八月八日 邦家親王妃景子殿下薨去に付、祖母の御續を以て

定式の假服受けさせらる。御日課

十一月二日 京都御寄留の義被<sup>二</sup> 聞食届<sup>一</sup>。賀陽宮記

十一月十八日 下立賣門内元久邇宮御邸地御拜借の上、御住

居。賀陽宮記、參照久邇宮記

十一月二十六日 従一位侯爵醍醐忠順長女好子を妃とせら

る。邦憲王殿下御婚姻記

十二月十六日 賀陽宮と被<sup>レ</sup>稱度御願之赴被<sup>二</sup> 聞食届<sup>一</sup>。賀陽宮記、官報、皇親録、日記、書翰、家扶山口良三郎

十二月二十六日 絢子女王殿下、従四位子爵竹内惟忠と結婚

せらる。御日課

卷之貳 自明治二十六年一月至全二十九年十二月

明治二十六年癸巳（一八九三）

一月一日 新年式。御日課

三月十一日 泉涌寺御廟并後月輪御陵へ御息所と共に御参拜

せらる。御日課

四月十八日 嵐山に櫻花を賞し給ふ。御日課

四月二十四日 日本赤十字社より有功章社員章を奉呈す。有功章添書、日記、宮内省記

四月二十七日 日本赤十字社京都支部第五回社員總會へ台

臨。日記、日本赤十字社京都支部記

六月十日 伏見宮貞致親王二百年御忌法要相國寺に於て執行

に付御参拜。御日課

六月二十日 市邨水香について習字の御稽古を遊ばさる。御日課

『邦憲王殿下御実録』網文（大平）

八月八日 故邦家親王妃景子殿下御一周年祭御執行に付、御

参拜。記日

九月九日 粟田青蓮院、火あり。記日

十一月三日 勲一等に叙し、旭日桐花大綬章御拜受。勲記、領票、御親

書○小松宮殿下、同○邦憲王殿下、賀陽宮記、皇親録、日記

十一月十五日 素子女王殿下、従四位子爵仙石政固長男従

五位仙石政敬と結婚せらる。記日

十一月三十日 皇子御降誕、輝仁と被レ命、満宮と奉レ稱。

賀陽宮記

明治二十七年甲午(一八九四)

二十八歳

三月九日 天皇皇后両陛下大婚二十五年御祝典を擧げさせら

る。日記、祝典之章佩用式書、宮内省記

六月二十一日 東京地震に付、天機を伺はせらる。記日

七月三十日 千猶鹿に就て茶湯御稽古の處、小習事拾六ヶ條

の許を受けらる。状許

八月一日 天皇陛下、詔を發して清國に宣戰を公布し給ふ。

詔書

八月十七日 輝久親王殿下○満宮、薨去被レ遊。賀陽宮記

九月七日 清國事件に付、京都市在住従軍者の家族及遺族に

して生計困難の者へ御救恤金を下賜。賀陽宮記

九月十三日 大本營を廣島に進め、車駕東京を發し給ふ。

征清戦史日記

十月十五日 臨時帝國議會を廣島に召集せらる。傳宣書、征清戦史

十一月十六日 皇太子殿下廣島へ行啓、廿五日、東京還啓の

為め七條停車場御通輿。東宮職記、日記

明治二十八年乙未(一八九五)

二十九歳

一月二十四日 熾仁親王殿下川宮、有栖、薨去せらる。記日

二月十日 任神宮祭主、高等官一等に叙せらる。官記、賀陽宮書、皇親録

翰○宮内大臣土方久元、日記

二月十九日 神宮祭主御拜任に付、御内祝宴開かせらる。

賀陽宮記、日記

二月二十二日 御任官奉告の為め御發途、二十三日 神宮御

参拜あらせられ、二十七日 御帰邸あらせらる。賀陽宮記、神宮

御奉告日誌、書翰○神宮々司鹿島則文、神宮司廳記

三月九日 猪熊夏樹を召して國書を講せしめらる。日記、猪熊夏樹談○髙

筆記、市家從

三月十八日 皇后宮陛下、負傷者并患者等御慰撫の為め廣島

行啓被レ仰出、京都駅御通輿に付、妃と御同列にて

御機嫌御伺被レ遊。賀陽宮記、廣島行啓書、大臣官房公文書、日記

三月二十一日 神宮祭主御拜任御礼并 天機御伺の為め、廣

島大本營へ御發途、三月廿五日、御帰邸あらせらる。

賀陽宮記、禁齋日記、廣島行啓書、征清事件御進營書、廣島御旅行日記

四月一日 第四回内國勸業博覽會開會式に御臨場。雜戰錄、日記

四月二十一日 日清講和成り、天皇陛下、詔を發し給ふ。征清戰史

征清戰史

四月二十六日 皇后陛下京都へ行啓、同月二十七日 大元帥

陛下京都へ行幸あらせ給ふ。賀陽宮記、禁營日記、廣島行啓書、征清戰史、日記

五月二十六日 二條離宮に於て酒饌を賜ふ。賀陽宮記、征清戰史、御進營書類、禁營日記、日記

五月二十九日 大元帥陛下京都御發輦、東京へ還幸、同月

三十日 皇后陛下京都御發輦、東京へ還御あらせ給ふ。賀陽宮記、日記、征清戰史

賀陽宮記、日記、征清戰史

六月一日 上加茂競馬御覽。奥向日記

六月十一日 神宮月次祭御奉仕の爲め 神宮へ御参向、同

十九日、京都へ御帰着。神宮録、神宮御参向日記、川原由松記、(表)神宮祭玉拜禮王殿下神宮御参回調書

六月十四日 神宮皇學館に成らせられ、生徒の講義を聞かせ

給ふ。神宮御参向日記、(表)神宮皇學館二閱スル調書

九月十三日 菊麿王殿下○山、公爵九條道孝二女範子と結婚

せらる。日記

十月六日 能褒野神社御靈代として、神鏡壹面御寄納あらせ

らる。三重縣記、賀陽宮記

十月二十一日 西加茂村醍醐家持山に於て松茸狩の御催あ

り。日記

十一月五日 能久親王殿下○北白薨去あらせらる。宮内省記、賀陽宮記

十一月八日 神宮大麻并翌年曆納。日記

十一月二十三日 妃好子殿下御分嬪、王女子御誕生遊ばさ

る。慶賀録、日記

十二月二十九日 御誕生の王女、由紀子と御命名。慶賀録、官報號外書

翰○家令小藤孝行、進獻金品調書、進賜録

十二月五日 朝鮮國王后陛下崩御に付、宮中喪被<sup>二</sup> 仰出<sup>一</sup>。

弔慰録、官報

十二月八日 故泗宮御三十年祭御執行。祭儀録、日記

十二月二十三日 由紀子女王御宮参。日記

十二月二十八日 翌年一月四日奏事始の儀に付申牒。神宮録

明治二十九年丙申(一八九六)

三月二十九日 神宮皇學館總裁御許容。神宮録、書翰○家令小藤孝行(參照)、神宮皇學館職制

四月二十八日 神宮へ二十七八年役戦利品を第一軍第二軍両

司令官より獻納す。神宮録

五月十一日 皇女御降誕、御名聰子と被<sup>レ</sup>命、泰宮と称し奉

る。慶賀録

五月十九日 帝國農家一致協會總裁に奉戴の義、御許容あら

せらる。帝國農家一致協會録、帝國農家一致協會記

五月二十一日 奧地利國皇弟チャールス・ルーイス太公殿下

薨去に付、宮中喪被<sup>二</sup> 仰出<sup>一</sup>。賀陽宮記

六月三日 妙寶院殿十三回忌法要、東本願寺に執行に付、御

参詣。記日

六月三十日 帝國農家一致協會へ令旨を賜ふ。帝國農家一致協會録

八月六日 故智當子女王御三十年祭執行。祭儀録、日記

八月十二日 帝國農家一致協會へ御寫真及御染筆を賜ふ。帝國農家一致協會記

帝國農家一致協會記

八月二十七日 甲子殉難志士三十三回忌法要、嗟哦天龍寺に於て執行に付、台臨。日記

於て執行に付、台臨。日記

九月七日 故邦家親王廿五年忌法要、相國寺に於て御執行に付、御参拝。日記

に付、御参拝。日記

十月二十九日 故朝彦親王御五年祭御執行に付、御参列。日記

十一月一日 故朝彦親王殿下神靈奉慰の爲め、奏樂御奉納。日記

十一月三日 天長節に付、於て大宮御所酒饌御拜領。祭儀録、日記

十一月十四日 伏見稻荷神社へ御参拜後、羽倉良豊茶室開きに付、台臨。日記

に付、台臨。日記

十一月二十八日 神宮司廳官制公布、祭主は親任官たり。

神宮録、書翰、家令小藤孝行

卷之参 自明治三十年一月至全三十二年十二月

明治三十年丁（一八九七）

一月五日 帝國農家一致協會事務弁理中村和三郎へ令旨を賜ふ。帝國農家一致協會記

ふ。帝國農家一致協會記

三十一歳

一月十一日 皇太后陛下、崩御遊ばさる。賀陽宮記、書翰、家令小藤孝行、日記、官報

一月二十五日 神宮祭主は御大喪には一切御関係あらせられ

ず様の御沙汰受けさせらる。賀陽宮記

一月三十日 皇太后陛下、自今英照皇太后と奉レ称旨、被レ

仰出。賀陽宮記

三月十四日 帝國農家一致協會に於て總裁宮拜戴式舉行に

付、令旨を賜ふ。帝國農家一致協會録

四月十三日 天皇 皇后両陛下京都行幸啓被レ仰出、

十八日御着輦、尔後御駐輦、八月二十二日御発輦被レ

仰出、同月二十三日東京還幸啓あらせらる。賀陽宮記、日記

六月十三日 神宮皇學館新築工成り、開館式舉行に付、台臨、

令旨を賜ふ。神宮皇學館記

六月三十日 拜借建物四百四十八坪五厘、有形之俣下賜せら

る。賀陽宮記、日記

九月二十四日 皇女御降誕、御名多喜子と被レ命、眞宮と

奉レ称。慶賀録

十月二十二日 天長節は宮中第三喪期中に付御祝典行はせら

れざる旨告示せらる。賀陽宮記

十二月二十五日 三十一年新年式は宮中喪期間行はせられざ

るも、神宮奏事の儀は御喪期済の上上奏可ニ相成ニ答

に付、例年の通り差出さる。神宮録

明治三十一年戊戌（一八九八）

三十二歳

一月十七日 英照皇太后御陵へ御参拜。日記、書翰○宮内大臣、土方久元

二月十七日 晃親王殿下○山、薨去あらせらる。日記

二月二十五日 朝鮮國大院君薨去に付、宮中喪被<sup>二</sup> 仰出<sup>一</sup>。

賀陽宮記

三月十五日 神宮皇學館生徒卒業証書式制定の件、御許容あらせらる。神宮録

三月二十八日 神宮皇學館へ御寫真を賜ふ。日記

四月十日 男爵渋谷隆教得度式に付、御肴料贈らせらる。日記

四月十八日 伏見宮美殿院外五方、相國寺内心華院へ被改葬

法事執行に付、御参詣あらせらる。日記

五月十九日 乗馬老頭、武徳會へ御寄附。日記、雜載録

五月二十三日 皇大神宮正殿御炎上、御正体風日祈宮へ御

動座に付、直ちに 神宮へ御参向。日記、賀陽宮記、神宮御参向日記、神宮録、伊勢新聞

六月十三日 皇大神宮假殿御遷座に付、祭儀無<sup>二</sup>御滞<sup>一</sup>御奉

仕遊ばさる。神宮司廳記、神宮録、神宮御参向日記

七月七日 神宮々司伯爵冷泉為紀へ令旨を賜ふ。神宮録、神宮司廳記

七月十五日 宇治地方へ御遊。日記

七月三十日 神宮臨時御造營山口祭、無<sup>二</sup>御滞<sup>一</sup>御奉仕遊ば

さる。神宮録、日記、神宮御参向日記

十月十二日 皇太子殿下京都行啓被<sup>二</sup> 仰出<sup>一</sup>御着輿、二十五

『邦憲王殿下御実録』綱文（大平）

日、宮邸へ行啓、十一月九日、東京還啓被<sup>二</sup> 仰出<sup>一</sup>京

都御発輿被<sup>レ</sup>遊。日記、賀陽宮記、東京職記○京都行啓日記

十一月十四日 大元帥陛下、陸軍大演習御統裁の為め大坂

府下へ 行幸被<sup>二</sup> 仰出<sup>一</sup>、二十日東京還幸被<sup>二</sup> 仰出<sup>一</sup>

京都駅御通輦に付、天機御伺遊ばさる。日記、大坂行幸書

十一月十六日 皇太子殿下へ御寫真を差上げらる。日記

明治三十二年亥（一九九九）

三十三歳

一月五日 賀茂神社・下御靈神社へ御参拜。日記

一月六日 泉山御陵御参拜。日記

一月七日 伏見宮御墓所へ御参拜、並に御親戚方へ御訪問。日記

一月十一日 英照皇太后御陵祭に付、御参拜。日記、祭儀録

同 日 多喜子内親王殿下○貞宮、薨去あらせらる。賀陽宮記、令小藤孝行

一月三十日 孝明天皇御陵祭に付、御参拜あらせらる。祭儀録、日記

二月十七日 帝國農家一致協會創立滿十年祝典舉行に付、令

旨を賜ふ。神宮御参向日記

二月二十六日 故晃親王○山御一周年御墓所祭に付、御参拜。祭儀録、日記

三月十五日 御賄料御増額の御沙汰請けさせらる。慶賀録、書翰○家令小藤孝

三月二十五日 祇園圓山也阿弥ホテル火あり、久我誓圓始め

へ御見舞の爲め御使差遣さる。 記日

四月一日 妃并由紀子女王殿下御同伴にて、桂離宮御拜観。 記日

四月四日 京都帝國大學第一回陸上運動會へ御臨場。 日記、京都帝國大學運動會 記

學運動會 記

五月十日 武徳會へ御臨場。 記日

五月二十七日 久我誓圓古稀に付、祝品贈らせらる。 日記、慶賀録

五月三十一日 二條恒子、京都へ移住せらる。 記日

八月二日 轉地御療養の爲め京都御発途、兵庫縣明石郡垂水

村周布公平別荘へ成らせられ、九月二日京都へ還らせらる。 雜戦録、日記

る。 雜戦録、日記

八月二十二日 従一位勲一等公爵九條道孝四女節子、今般東

宮御息所に御治定之旨 御内意被<sup>レ</sup>仰出。 慶賀録

九月二十六日 榮子女王殿下、従三位勲四等子爵東園基愛と

結婚せらる。 慶賀録、日記

十月九日 妃好子殿下、御着帯あらせらる。 (慶賀録、日記、(参照)古事類苑)

十二月十三日 邦彦王殿下<sup>○久</sup>、公爵島津忠重姉婿子と結婚

せらる。 慶賀録、日記

十二月二十一日 巖本範治につき御習字の御稽古あらせら

る。 日記

卷之四 自明治三十三年一月至全 年十二月

明治三十三年庚子(一九〇〇)

三十四歳

一月十一日 英照皇太后御陵三年御式年祭に付、御参拜。 祭儀録、日記

祭儀録、日記

一月二十七日 妃好子殿下御分娩、王子御誕生遊ばさる。 慶賀録、日記

二月二日 御誕生の王子、恒憲と御命名。 報、日記、慶賀録、官

二月十一日 皇太子殿下、従一位勲一等公爵九條道孝第四女

節子御方と御結婚の義、御成約あらせらる。 慶賀録

二月十八日 神宮皇學館に臨ませられ、教育の旨趣に付令旨

を賜ふ。 神宮録、神宮御参向日記

二月二十六日 恒憲王殿下、御宮参。 慶賀録、日記、奥向日記、御献立書、書翰<sup>○</sup>神宮祿直松垣貞吉

四月二十三日 妃并恒憲王両殿下御同伴、小松宮御旅館に於

て御厚待受けさせらる。 記日

四月二十七日 大元帥陛下、海軍大演習御統裁の爲め兵庫縣

下へ行幸被<sup>レ</sup>仰出、五月二日、東京還幸被<sup>レ</sup>仰出

京都駅御通輦に付、天機御何遊ばさる。 賀陽宮 記、日記

五月九日 特旨を以て、御賄料御増額、一家創立の御沙汰を

蒙らせらる。 宮内省記、慶賀録、書翰<sup>○</sup>隨行員、人事録、御慶事書類、御清所日記、賀陽宮記、日記

五月十日 皇太子殿下御婚禮被<sup>レ</sup>爲<sup>レ</sup>行。 慶賀録、日記

五月二十三日 皇太子同妃両殿下、神宮及山陵御拜の爲め

東京御発車、京都府三重奈良両縣下へ行啓、六月二日、  
京都御発車、沼津へ行啓あらせらる。官報、神宮司廳記、慶賀  
録、東宮職書類、日記

五月三十日 皇太子殿下、行啓あらせらる。慶賀録、  
日記

六月一日 恒憲王殿下、御箸初。日記、奥向日  
記、御清所日記

六月五日 恒憲王殿下、御初節句御祝。日記、御  
清所日記

七月四日 従一位侯爵醍醐忠順薨去に付、妃好子殿下御父の  
御續を以て定式の御假服受けさせらる。弔慰  
録

七月十四日 京都帝國大學第壹回卒業證書授與式に御臨場。  
日記、京都  
帝國大學記

七月三十一日 伊太利國皇帝陛下崩御に付、二十一日間宮中  
喪被<sup>二</sup> 仰出<sup>一</sup>。弔慰  
録

九月二十五日 皇大神宮臨時御造營御遷宮に付、神宮へ御  
参向、十月二日、御遷宮式御奉仕、十一日、別宮瀧原宮  
に、十三日、別宮伊雜宮に御参拜、十七日、神宮神嘗祭  
御奉仕、十九日、京都へ還らせらる。造神宮録、神宮司廳記、  
神宮御参向日記、神宮録

九月二十七日 神宮司廳官制改正。神宮  
録

十月十五日 皇太子殿下、二條離宮へ行啓、十六日、舞子へ  
向け御発輿あらせらる。東宮職書類○中国九州  
四国行啓日記、日記

十月二十四日 故朝彦親王御分靈御鎮座式行はせらる。日記、  
祭儀録、御  
清所日記

十月二十七日 久邇宮より御誘ひに依り、三井家持山に於て  
松茸狩遊ばさる。日記

十一月十九日 皇太子殿下、二條離宮へ行啓、二十日、沼  
津還啓に付、御機嫌御伺遊ばさる。雜載録、東宮職記録○  
中国九州四国行啓日記

十一月二十八日 守正王殿下○梨、正二位勲一等侯爵鍋島直  
大次女伊都子と御結婚せらる。慶賀録、  
日記

十二月一日 年中行事式を定めらる。賀陽  
宮記

### 卷之五 自明治三十四年一月 至三十五年十二月

明治三十四年<sup>辛</sup>(一九〇一)

三十五歳

一月十五日 臨時謡曲會御催。日記

一月十六日 商船學校練習船月島丸遭難に付、弔慰金下賜。  
日記、弔慰録、(參照)月  
島丸遭難弔慰金募集廣告

一月二十日 久邇宮に於て謡曲初會御催に付、御臨場。日記

一月二十三日 英國皇帝ヴィクトリヤ陛下崩御に付、二十一  
日間宮中喪被<sup>二</sup> 仰出<sup>一</sup>。弔慰  
録

二月二日 久邇宮王子御誕生、朝融と御命名の旨御吹聴あ  
り。慶賀録、  
日記

二月二十六日 故晃親王<sup>○山</sup>御三周年御墓所祭に御参拜あら  
せらる。祭儀録、  
日記

三月一日 神宮臨時御造營に付諸般の事務御量督御尽力の廉

に依り、以<sup>二</sup>思召<sup>一</sup>屏風巻双御下賜の御沙汰被<sup>レ</sup>為<sup>レ</sup>蒙。  
神宮録、圖  
解、日記

三月九日 皇太子妃殿下御着帯に付、御祝詞申上げらる。 慶賀

四月四日 皇宮警察署演武場へ御額字を賜ふ。 日記

四月六日 禎子女王殿下<sup>○伏</sup>、正五位勲四等侯爵山内豊景と  
見宮

御結婚せらる。 慶賀、  
日記

四月二十一日 佛光寺本堂上棟式舉行に付、願出に依り台  
臨。 發議録、  
日記

四月二十九日 皇太子妃殿下御分婉、親王御降誕、御名を裕<sup>ミナ</sup>

仁迪宮と奉<sup>ミナ</sup>レ称。 慶賀  
録

五月十二日 宇治地方へ御遊。 日記

五月十五日 賀茂祭行列御覽。 祭儀録、  
日記

七月七日 多嘉王殿下と共に、上加茂御戸代能御覽。 日記

八月三日 兵庫縣明石郡垂水村大谷伯爵別荘御借入、轉地御

療養の爲め御発<sup>レ</sup>途、二十六日、京都へ還<sup>レ</sup>らせらる。 雜載録、  
日記

九月六日 皇大神宮正殿御屋根雨水滲人の廉有<sup>レ</sup>之、御修繕に

付、假殿御遷座式御奉仕遊ばさる。 神宮録、造神宮録、神宮司廳  
記、神宮御參向日記、日記

九月十三日 故守脩親王<sup>○梨</sup>本宮御二十年御墓所祭に付、御參拜。  
祭儀録、  
日記

十月三日 故淑子内親王<sup>○桂宮</sup>御二十年祭御執行に付、御參  
拜。 祭儀録、  
日記

十月十九日 故朝彦親王御墓所を御修理。 日記、  
祭儀録

十月二十四日 故朝彦親王御十年相當に付、御靈殿祭御執

行、二十九日、御墓所祭に付、御參拜あらせらる。 祭儀録、  
日記

十月二十七日 官幣大社臺灣神社鎮座式に付、各宮より幣帛

料御備あり。 祭儀録、書翰<sup>○久邇宮</sup>  
家令小藤孝行、日記

十月三十一日 山階宮王女御誕生、安子と御命名の旨御吹聽

あり。 慶賀録、  
日記

十一月四日 梨本宮王女御誕生方子と御命名の旨御吹聽あ

り。 慶賀  
録

十一月九日 主殿寮演武場に於て武術仕合御覽。 日記

十一月十一日 菊麿王妃範子殿下<sup>○山薨去</sup>。 弔慰録、書翰<sup>○久邇宮家</sup>  
令小藤孝行、賀陽宮記

十一月二十日 大宮御所御庭に於て紅葉御覽。 日記

十一月二十七日 純子女王殿下、正五位子爵織田秀實と御  
結婚せらる。 慶賀録、  
日記

十二月二日 皇大神宮本殿御遷座式御奉仕。 造神宮録、神宮録、神宮  
司廳記、神宮御參向日記

十二月三日 皇太子同妃兩殿下より御慶事献品中御贈進あ

らせらる。 雜載  
録

十二月十二日 光格天皇御陵祭に付、御參拜。 祭儀録、  
日記

明治三十五年壬寅(一九〇二)

三十六歳

一月九日 柳沢明子逝去に付、皇后宮陛下の御機嫌御伺遊

ばさる。 弔慰録、  
日記

一月十一日 英照皇太后御陵五年御式年祭に付、御参拜。祭儀録

一月二十二日 伏見宮傳來妙音尊天堂宇再築遷座式に付、御参拜。日記

あり。慶賀録

一月二十六日 華頂宮王子御誕生、博忠と御命名の旨御吹聴

あり。慶賀録

二月九日 故智成親王北白川宮三十年御墓所祭に付、御参拜。祭儀録、日記

あり。慶賀録

三月十日 久邇宮王子御誕生、邦久と御命名の旨御吹聴

あり。慶賀録

三月三十一日 北野天満宮千年祭に付、御寄附金并に御備あ

らせらる。雜職録、書翰○久邇宮家令小藤孝行、日記

四月四日 由紀子女王殿下、京都市立竹間尋常小學校へ御入

學。學事録日記

四月二十四日 西班牙皇帝陛下の皇祖父フランシスコ陛下崩

御に付、十日間宮中喪被<sup>レ</sup>仰出。弔慰録

五月二日 神宮式年御遷宮山口祭御奉仕。神宮録、造神宮録、神宮御参向日記

五月十五日 皇太子妃殿下御着帯に付、御祝詞申上らる。慶賀録

五月二十日 京都御苑下立賣御門内久邇宮元拜借地の内七千

參拾八坪參合九勺ヲ二十ヶ年間拜借せらる。雜職録

六月二十五日 皇太子妃殿下御分嬖、親王御降誕、御名を雍

仁淳宮と奉<sup>レ</sup>称。慶賀録、書翰○久邇宮家令小藤孝行

『邦憲王殿下御実録』網文(大平)

六月二十六日 脚氣の御氣味あり、又恒憲王、由紀子女王兩

殿下御不例に付、兵庫縣武庫郡須磨村大谷伯爵別荘御借

入、轉地御療養の爲め御発途、八月二十五日迄御滞在の

上、京都へ還らせらる。雜職録、日記

九月七日 故一品邦家親王伏見宮三十年祭に付、御参拜。祭儀録、日記

九月二十五日 白耳義國皇后マリイ・ハンリエット陛下崩御

に付、二十一日間宮中喪仰出さる。弔慰録

十一月八日 大元帥陛下熊本縣下へ行幸、十八日東京還幸に

付、八日稻荷駅に、十八日京都駅に於て御奉迎送、天

機御伺遊ばさる。雜職録、日記

十一月十一日 妃好子殿下御着帯。慶賀録、日記、御清所日記

十一月十九日 故宗諱宮伏見宮十三回御忌御法事、靈鑑寺に於

て御執行に付、御参拜。祭儀録、日記

十二月二十六日 菊麿王殿下山階宮、公爵島津忠重姉常子と御

結婚せらる。慶賀録

卷之六 自明治三十六年一月至三十八年十月

明治三十六年卯癸(一九〇三) 三十七歲

一月三十一日 御沙汰に依り、依仁親王殿下、東伏見宮と稱

せらる。慶賀録

二月六日 貞子女王殿下北白川宮、伯爵有馬頼萬長男頼寧と御

結婚せらる。慶賀録、書翰○久  
瀬宮家令小藤孝行

二月十八日 彰仁親王殿下○小薨去に付、御上京。日記、御東上  
松宮日記、弔慰録弔慰録

三月三日 故晃親王階宮○山五周年御墓所祭に付、御参拜。祭儀録祭儀録

三月六日 久邇宮王女御誕生、良子ナガと御命名の旨御吹聴あり。慶賀録慶賀録

三月二十九日 守正王殿下本宮○集御見學の為め歐洲へ御渡航あり。雜載録雜載録

三月三十日 妃好子殿下御分嬪、王女御誕生あり。慶賀録慶賀録

四月五日 御誕生の王女、佐紀子と御命名あらせらる。慶賀録慶賀録

四月十三日 聖上 皇后両陛下、京都御所へ行幸、五月十一日、東京還幸あらせらる、天機御伺の為め御参内、御拜領品あり。雜載録雜載録

四月二十九日 佐紀子女王殿下、御宮参。日記、奥向日日記

五月二十五日 第五回勸業博覽會へ御台臨。雜載録雜載録

七月二十七日 佐紀子女王殿下御箸初式。日記、御清所日記日記

八月五日 武徳會へ台臨、游泳術御覽。日記日記

八月九日 如意嶽大文字始火に付、浄土寺町へ金員下賜。日記、人參日記

八月二十七日 桂村六齋念佛御覽。日記日記

八月二十九日 神宮皇學館官制公布に付、總裁の主義消滅。神宮録、神宮皇學館記、書翰○神社局長白仁武神宮録、神宮皇學館記、書翰○神社局長白仁武

九月二十九日 従一位侯爵久我建通薨去に付、皇后陛下の御機嫌御伺遊ばさる。弔慰弔慰

十月一日 妃好子殿下御同伴、盲啞院に御成、下賜金あり、尚孤児院・感化保護院・施藥院へも下賜金あり。日記日記

十月四日 御親戚方を御招にて晚餐會を被レ為レ開。清所日記清所日記

十月二十日 東宮殿下、二條離宮へ行啓、二十三日御發輿に付、御機嫌御伺御奉迎送遊ばさる。日記日記

十月二十四日 獅子王院朝彦親王拾参回御忌法要、心華院に於て執行に付、御参詣。日記日記

十一月三日 大勲位に叙し、菊花大綬章御拜受。日記、勲記寫、領票、宮内省記日記、勲記寫、領票、宮内省記

十一月十二日及十八日 大元帥陛下、七條駅御通輦に付、多嘉王殿下と共に 天機御伺遊ばさる。日記日記

十一月十五日 片山能樂堂に於て能樂御覽。日記日記

明治三十七年甲(一九〇四) 三十八歳

一月七日 韓國明憲太后崩御に付、宮中喪被レ 仰出。弔慰弔慰

一月十五日 御沙汰に依り、博恭王殿下頂宮伏見宮へ御復帰、博忠王殿下華頂宮を御繼承せらる。慶賀録慶賀録

一月二十九日 家令中川忠純、依願免二賀陽宮家令一、賀陽宮家令御用掛兼勤被二 仰付一、久邇宮家令小藤孝行任二 賀陽宮家令一。人事人事

二月十日 天皇陛下、詔を發して露國に宣戰を公布し給ふ。

詔書、  
日記

二月十四日 神宮宣戰奉告祭、同十七日 神宮祈年祭に付參

向、奉仕せらる。神宮録、神宮  
御參向日記

二月十九日 邦彦王殿下久出征せらるるに依り、大坂駅に御

見立在せらる。日記

三月二十日 京都奉公義會へ金百圓寄附あらせらる。賀陽宮  
日記

記(參照)京  
都奉公義會規約

三月二十五日 帝國軍人援護會へ各宮より金圓を下賜せら

る。賀陽宮記、(參照)帝  
國軍人援護會趣意書

三月三十日 久邇宮王女御誕生、信子と御命名の旨御吹聴あ

り。慶賀  
録

四月六日 守正王殿下梨、佛國より御帰朝。賀陽宮  
日記

六月五日 上加茂神社競馬會御成。日記

七月二十一日 聖上 皇后両陛下へ時局に付御菓子御献進あ

らせられ、東宮 同妃両殿下初め出征の各宮へは家令

小藤孝行を以て御機嫌御伺あらせらる。日記

七月三十日 西班牙國皇帝陛下の高祖母イサベラ陛下崩御に

付、宮中喪被<sup>レ</sup>仰出<sup>一</sup>。

八月八日 故邦家親王伏見宮三十三年・故景子邦家親王妃三十三年御忌

に付、心華院に於て御法事執行に付、御參拜。日記

『邦憲王殿下御実録』網文(大平)

八月十五日 博恭王殿下伏見、若宮、旅順に於て御負傷に付、御

見舞遊ばさる。日記

九月二十三日 妃殿下并に御子女方御同伴、無隣庵へ御成。日記

十月十九日 三重縣振武會へ金百圓御寄附、且神宮職員にし

て出征せるもの及家族の者へ弔慰金下賜せらる。賀陽  
宮記

同日 西班牙國皇帝陛下の姉ブランセツス、ダスチユ

リー殿下薨去に付、宮中喪被<sup>レ</sup>仰出<sup>一</sup>。弔慰  
録

十一月五日 観菊の宴を催さる。日記

十一月十二日 多嘉王殿下と共に高雄附近御遊覽。日記

十一月十四日 満子女王殿下北白、川宮、正三位伯爵甘露寺義長

男受長と結婚せらる。慶賀録、  
日記

十一月二十九日 多嘉王殿下と奈良に成らせられ、正倉院

御物拜観遊ばさる。雜戯録、  
日記

十二月九日 人円會へ金品下賜せらる。日記

十二月十八日 皇太子妃殿下御着帯に付、御祝詞申上らる。

慶賀  
録

明治三十八年乙(一九〇五)

一月三日 皇太子妃殿下御分娩、親王御降誕、御名宣仁光宮

と奉<sup>レ</sup>称。慶賀録、  
日記

一月十五日 故熾仁親王有栖川宮御十週年祭に付、鳩彦王殿下

に御代拜を御依頼遊ばさる。祭儀録、  
日記

三十九歳

二月十八日 造神宮使の御職務を以て、神宮御造營工事の作  
事場御巡視あらせらる。造神宮司廳記、伊勢朝報、神宮御參向日記

二月二十五日 山階宮王子御誕生、藤麿と御命名の旨御吹聴あり。慶賀録、日記

四月十七日 向陽會總裁に推戴方願出の處、御承諾。賀陽宮陽會記、日記

四月十八日 皇后陛下より恒憲王殿下病氣御尋の御沙汰を蒙らせらる。賀陽宮記、日記、雜載録

五月十五日 葵祭行列御覽。日記

五月二十二日 博恭王妃殿下御分娩、王子御誕生、博信と御命名の旨御吹聴あり。慶賀録、日記

七月二日 妃殿下并に御子女方御同伴、動物園及南禪寺附近御遊覽。日記

七月二十五日 兵庫縣武庫郡須磨御料地内に別邸建築中の處、落成を告ぐ。書勢○医学博士笠原光興、書翰○侍從子爵東園基愛、賀陽宮記、掛員手扣、工事工程表、贈賜録

八月八日 妃好子・恒憲王・由紀子女王・佐紀子女王各殿下御同伴、轉地御療養の爲め須磨御別邸へ御成、九月二十五日迄御滞在の上、京都へ還らせらる。賀陽宮記、須磨御療行日記、日記、(表)須磨御別邸御事

十月七日 伏見宮に於て後崇光院太上天皇四百五拾年御忌

法要、相國寺内心華院にて御執行に付、御參拜。日記

十月十六日 日露講和成り、天皇陛下詔を發し給ふ。詔書、慶賀録、書翰○近藤久敏

十月二十二日 平安神宮時代祭行列御覽。日記

十月二十五日 久邇宮より御誘ひに依り、桃山に松茸狩の御催あり。日記

卷之七 自明治三十八年十一月  
至全四十二年四月廿七日  
明治三十八年乙(一九〇五)

十一月十四日 天皇陛下、平和克復に付 神宮御參拜被仰出、東京御發輦、十六日 豊受大神宮に、十七日 皇大神宮に御參拜、十九日東京還幸あらせ給ふ、祭儀無二

御滞、御奉仕の廉に依り、金品恩賜の御沙汰を拜させらる。神宮録、神宮司廳記、神宮司廳儀式課記、宮内省記、明治乙未御參拜記、神宮御參向日記、書翰○家令小藤孝行、書翰○家從堀川師克、書翰○家從並河総次郎

十一月二十四日 神宮大宮司伯爵冷泉為紀薨す。神宮御參向日記、書翰

○伊勢隨行員、書翰  
○家從並河総次郎

十二月二十五日 皇太子殿下 神宮御參拜の爲め東京御發輦、二十七日 豊受大神宮に、二十八日 皇大神宮に御參拜あらせられ、三十日東京還啓あらせ給ふ、祭儀無二

御滞、御奉仕に依り 皇太子殿下より金品を進ぜらる。神宮録、神宮司廳記、神宮司廳儀式課記、東宮職記、明治乙未御參拜記、神宮御參向日記

十二月二十九日 白耳義國皇帝陛下の皇弟コンド、ト・フラ

ンドル殿下薨去に付、八日間宮中喪被<sup>レ</sup>仰出<sup>ス</sup>。 甲斐録 日記

十二月五日 守正王殿下<sup>○梨</sup>、須磨御別邸御借用にて轉地御療養遊ばさる。 日記

十二月八日 邦彦王殿下<sup>○久</sup>、戦地より凱旋せらる。 日記

十二月二十三日 皇太子殿下御滞留中の御機嫌御伺として、

多嘉王殿下御同伴、舞子御旅館へ成らせらる。 雜載録、東宮 職記 日記

明治三十九年丙午(一九〇六)

四十歳

一月十三日 帝國農家一致協會事務弁理へ令旨を賜ふ。 帝國 農家 一致協 會記

二月十一日 閑院宮王女御誕生、寛子と御命名の旨御吹聴

り。 慶賀録 日記

三月十七日 宮城福島巖手三縣下凶歉に付、各宮御連合にて

救恤金下賜せらる。 賀陽宮 職記 日記

三月三十日 御沙汰に依り、鳩彦王殿下、朝香宮と被<sup>レ</sup>称、

恒久王殿下、竹田宮と被<sup>レ</sup>称。 慶賀録 日記

四月二日 恒憲王殿下、京都市立竹間尋常小學校へ御入學。 日記

四月三日 佐紀子女王殿下、御初節句御内祝。 日記、御 清所日記

四月四日 皇太子殿下、當宮須磨御別邸へ行啓あらせらる。 雜載録、日 記、東宮職記

四月九日 由紀子女王殿下、竹間尋常小學校御卒業、市立第一高等小學校へ御入學。 學事録、日記

四月十日 邦彦王殿下<sup>○久</sup>凱旋祝宴御催に付、御招待を受け

らる。 日記

四月十二日 觀櫻の宴を兼ね、久邇宮各殿下を御招待せら

る。 日記、御 清所日記

四月十五日 京都帝國大學水上運動會舉行に付、御臨場あら

せらる。 日記、京都帝國大 學水上運動會記

四月二十一日 山階宮王子御誕生、萩磨と御命名の旨御吹聴

あり。 慶賀録、日記

四月二十八日 税所篤彦・佐々木弥太郎を召し薩摩琵琶を聴

かせらる。 日記

六月十三日 各宮より帝國海事協會の旨趣を御賛成、金員御

寄附あらせらる。 日記、雜載録

七月七日 華族會館京都分館に於て蹴鞠會七夕鞠御覽。 日記

七月十三日 旅順忠魂碑建設費中へ各宮より金員下賜せら

る。 日記、賀 陽宮記

七月二十一日 守正王殿下<sup>○梨</sup>、近日佛國へ御渡航に付、御

墓參の為め御入洛、御招に依り同宮御催の午餐會に臨ま

せらる。 雜載録、日記

八月十一日 日本赤十字社より三十七八年戦役救護記念章奉呈。日記

九月一日 久邇宮王女御誕生、智子と御命名の旨御吹聴あり。慶賀録、須磨御旅行日記、日記

十月二十八日 篤子女王殿下、従四位伯爵壬生基義と結婚せらる。慶賀録、日記

十一月三日 御沙汰に依り、稔彦王殿下、東久邇宮と被レ称。慶賀録、日記

明治四十年<sup>末</sup>(一九〇七)

四十一歳

一月十三日 英照皇太后御十周年聖忌に付、御懺法講、梶井三千院に於て奉レ修、御結日に付、御備金あらせらる。祭儀録、日記

二月一日 孝明天皇御四十年聖忌に付、御懺法講、梶井三千院に於て奉レ修、御結日に付、御備金あらせらる。日記

二月六日 皇室典範増補御裁定に付、宮内次官男爵花房義賢を御差遣、宮殿下へ御諮詢あらせらる。須磨御別邸日記、(參照)皇室典範増補

二月十四日 英國へ御差遣の貞愛親王殿下○伏見宮御召船テバナ号、伊豫三ヶ島附近に於て神劬丸と衝突の為め神戸港へ寄港に付、家従堀川師克を使として御旅館へ御見舞申し進めらる。雜載録、日記、須磨御別邸日記

二月二十一日 仁孝天皇御陵祭に付、御参拜。祭儀録、日記

三月九日 多嘉王殿下、従三位子爵水無瀬忠輔長女静子と結婚せらる。慶賀録、日記

三月十七日 邦彦王殿下、御見學として近日歐洲へ御渡航、多嘉王殿下、御結婚婚済に付、御招に依り同宮御催の御晩餐會に臨ませらる。日記、御清所日記

三月二十七日 綿ネル株式會社及葉煙草專賣局京都製造工場御巡覽。日記

四月四日 邦彦王殿下○久邇宮、御見學として歐洲へ御差遣に付、京都御出發せらる。雜載録、日記

四月二十七日 梨本宮王女御誕生、規子りと御命名の旨御吹聴あり。慶賀録、日記

五月六日 青蓮院黒書院再建費中へ金五百圓を寄附せらる。賀陽宮、日記

五月十三日 洛東靈山招魂祭場に於て大祭舉行に付、御備金下賜。日記

同日 洛西梅宮神社若宮に於て橘諸兄公千五十年祭執行に付、御詠并に御備あらせらる。橘諸兄公祭、典記、日記

五月十八日 博恭王○伏見宮妃殿下王女御二方御分媿、敦子と、知子と御命名の旨御吹聴あり。慶賀録

六月四日 皇太子妃殿下、六日 皇太子殿下京都行啓、九日東京還啓あらせらる、而殿下より御贈賜品あり。東宮職書類行啓日記、日記

六月二十五日 神宮御參拜の節別宮御遙拜次第を定めらる。

神宮  
録

七月二日 帝國農家一致協會法人組織成り、大會開催に付、

令旨を賜ふ。  
帝國農家一致協  
會二閱スル書類

七月十三日 金剛能樂堂に於て能樂御覽、后ち祇園會の各紳

御巡覽あり。記

九月三日 京都府下水害罹災救助費中へ金員下賜せらる。

日記  
陽宮記

九月十七日 得淨明院本堂移轉庫裡改造竣工披露の爲め、久

我誓圓より上申に依り、午餐會に臨ませらる。  
慶賀録、  
日記

十月五日 従一位勲一等中山慶子薨去に付、天機を伺ひ奉

らる。  
日出新聞号外、  
弔慰録、日記

十月十日 嵯峨大谷伯爵家○光別荘に於て謡曲會開催に付、

願出に依り御臨場。  
記

十月二十七日 故肥後守従五位下香川景樹独立百年記念祭及

影供歌會南禪寺中金地院に於て執行に付御臨場、且御詠

下賜せらる。  
祭儀録、  
日記

十一月十八日 兵庫縣武庫郡鳴尾関西競馬大會へ多嘉王殿下

と共に御臨場、賞品として御紋付花瓶志對下賜せらる。

雜載録、  
日記

十二月一日 大谷派本願寺大門建築起工式場へ台臨。

慶賀録、  
日記

『邦憲王殿下御実録』網文(大平)

明治四十一年申戊(一九〇八)

四十二歳

一月十一日 博恭王殿下○伏見、  
若宮御見學の爲め歐洲へ御渡航。

雜載録、  
日記

一月二十五日 故従一位一條忠香室勲二等一條順子○松薨去  
諡院

に付、御伯母の御續を以て定式の御假服被<sub>レ</sub>爲<sub>レ</sub>受。  
弔慰録、  
日記

三月十九日 京都市立竹間尋常小學校々々増築費中へ金員下

賜せらる。  
雜載録、  
日記

四月三日 一徳會の主旨御賛成、御寄附金あらせらる。

日記、賀  
陽宮記

四月七日 裁仁王殿下○有栖薨去せらる。  
書翰○久邇宮附家扶中  
川安重、弔慰録、日記

四月二十七日 竹内絢子○御妹へ家政整理上の廉を以て、本年

より向ふ十ヶ年間補助金あらせらる。  
秘書録、  
日記

卷之八 自明治四十一年四月廿九日  
至四十二年十二月

明治四十一年申戊(一九〇八)

四月二十九日 山階宮王男子御誕生、茂麿と御命名の旨御吹

聴あり。  
慶賀  
録

四月三十日 恒久王殿下○竹田宮、昌子内親王殿下と御結婚せら

る。  
日記

五月二日 菊麿王殿下○山階薨去に付、  
階宮、父方従弟の御續を以て

定式の御假服受けさせらる。  
弔慰録、書翰○家  
令小藤孝行、日記

五月十三日 新緑の好期に付晚餐會御催、御親戚方を招かせる。日記、御清所日記

七月九日 京都帝國大學教授工學博士松村鶴造外七名を召し、謡曲を聽かせらる。日記

七月十八日 一德會講師を召し、道話を聽かせらる。日記

十月九日 陛下の思召を以て、御菓子彦折御拜領。日記

十一月七日 思召を以て、馬車宅輛・馬車道具老組・鞍馬

貳頭下賜の御沙汰を受けさせらる。慶賀録、日記

十一月八日 實枝子女王殿下有栖川宮、従一位勲一等公爵徳川

慶喜嗣子正五位徳川慶久と結婚せらる。慶賀録

十一月十日 大元帥陛下、陸軍特別大演習御統裁の爲め奈良

縣下へ行幸被<sub>二</sub>仰出<sub>一</sub>、奈良停車場御着輦に付、多嘉

王殿下と共に御奉迎、天機御伺遊ばさる。賀陽宮記、日記

十一月十四日 修學院離宮に於て紅葉を賞せらる。日記

十一月十五日 故三品博經親王妃郁子殿下華頂薨去せらる。宮大妃薨去せらる。

十一月十八日 織田純子御病氣、赤十字社病院へ入院に付、妹

退院迄賀陽宮・久邇宮・朝香宮・東久邇宮連合にて補助金贈らせらる。秘書録

十一月二十一日 清國皇帝並に太皇太后両陛下崩御に付、

二十一日間宮中喪被<sub>二</sub>仰出<sub>一</sub>。弔問録

十二月十九日 皇室財政に關し勅諭を發せらる。賀陽宮記、勅諭日記

十二月二十四日 梨本宮伊都子殿下、明年御渡歐御留別の爲め午餐に御招に付、中村樓に御成。雜載録、日記

明治四十二年西(一九〇九) 四十三歲

二月十七日 邦彦王妃倪子殿下御渡歐御留別の爲め、都ホテルに於て午餐に御招に付御成、十九日宮邸へ御招の上御

晚餐を共にせらる。雜載録、日記

二月二十六日 帝國農家一致協會總會に付、旨旨を賜ふ。國帝

三月四日 竹田宮王子御誕生、恒徳と御命名の旨御吹聴あり。慶賀録、日記

四月五日 佐紀子女王殿下、京都市立竹間尋常小學へ御入學。學事録

四月十二日 東宮殿下舞子御駐輿中の御機嫌御伺の爲め、使

を以て御菓子を差上らる。日記、東宮職記、皇太子殿下下兵衛縣行啓日記

四月二十九日 成久王殿下北白川宮、房子内親王殿下と御結婚

せらる。慶賀録、日記

五月十四日 家令小藤孝行、休職を命ぜられ、従五位勲六等

磯谷熊之助、家令に任じ賀陽宮附を命ぜらる。人事録

六月五日 御違例の爲め須磨御別邸へ轉地御療養、八月二十七日、京都へ還らせらる。御違例書須磨御轉地日記

六月三十日 閑院宮王女御誕生、華子と御命名の旨御吹聴あり。慶賀録

七月二十九日 守正王○梨本宮同妃伊都子○梨兩殿下、歐洲より御帰朝。雜載録、須磨御別邸日記、日記

九月二十一日 神宮式年遷宮御奉仕は御違例に依り御不参の上静養すべく、御沙汰を受けさせらる。秘書録

九月二十四日 天皇陛下より侍従子爵東園基愛を被<sub>レ</sub>差遣一御病氣御尋として御菓子を賜ひ、又内大臣秘書官日高秩父を被<sub>レ</sub>差遣一静養可<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>在御沙汰あらせらる。御違例書

九月二十五日 博恭王妃経子殿下、歐洲へ御渡航せらる。雜載録

九月二十六日 多嘉王殿下○久臨時神宮祭主御拜任に付京都御出發、十月二日 皇大神宮、五日 豊受大神宮、式年遷宮奉仕せらる。神宮録、日記

九月二十七日 天皇陛下の御沙汰により、侍醫頭男爵岡玄卿參邸拜診、又 皇后陛下より病氣御尋として御菓子料を賜ふ。御違例書

十月七日 皇太子同妃兩殿下より病氣御尋として御菓子御贈進あらせらる。御違例書

十月八日 神宮式年遷宮記念品御調製、御近親の方々へ頒たれ、又関係の向々へ贈賜あらせらる。神宮録

十月二十三日 御沙汰により、侍醫頭男爵岡玄卿再び參邸拜

〔邦憲王殿下御実録〕網文（大平）

診、兩陛下より御菓子料を下賜せらる。御違例書

十月二十八日 皇太子同妃兩殿下より東宮侍従田内三吉を、

十一月二十二日、更に御使を御差遣、御病氣御尋として御菓子を御贈進あらせらる。御違例書、日記

十月三十日 邦彦王同妃兩殿下○久、歐洲より御帰朝に付、御使として家従を被<sub>レ</sub>差遣一。日記

十一月四日 聖上陛下より御使として侍従子爵東園基愛を、

二十九日侍従北條氏恭を被<sub>レ</sub>差遣一、御病氣に付深厚なる御沙汰あらせられ、且御尋として御菓子を下賜せらる。日記、御違例書

十一月十七日 聖上陛下 思召を以て御病氣に付金參千圓を下賜せらる。秘書録

十一月二十五日 皇后陛下より病氣御尋として御使を被<sub>レ</sub>差遣一、御真那料を下賜せらる。日記、御違例書

十一月三十日 神宮式年御造營に付、造神宮使として諸般の事務御董督御盡力不<sub>レ</sub>尠段 御満足に被<sub>レ</sub>思召一、金五千圓御下賜あらせらる。造神宮録、造神宮司廳記

十二月八日 薨去。薨去録

（おおひら かずのり・皇學館大学助教）